

服忌令明細集

二

73  
6335  
2



後志令明細集

二

去  
水  
五  
味  
均  
平  
藏

嫡子九

忌二十日

服九十日

稻垣章



家督と定む時、末子此服忌より女子、完初より、事難  
男子完初のしきと嫡子と申、嫡子ては、病弱して退身、或ハ男  
持上り、或ハ家督不徳、或ハ他家に之扱、女子は、母  
其家お續、或は、末子の忌服十日三十日と申、此は、女子  
子、或は、男と嫡子と、且、歎、或は、退身、或は、末子此服忌也

嫡子退身、其服忌、事

母永九子年二月  
長山云々句々

一 家督と嫡子、儀、此、病、弱、退、身、或、は、自、分、没、再、勤、此、右、嫡、子、死  
去、り、末、子、服、忌、の、文、一、旦、家、督、と、儀、此、方、嫡、子、服、忌、の、文、  
此、附、札

書、面、一、旦、家、督、没、お、續、け、隠、居、之、お、歎、一、旦、家、督、を、儀、  
此、父、好、命、を、死、退、身、没、之、父、再、勤、没、此、儀、お、申、此、方



一旦家智被公儀之及沙法退男之上事子服忌之好

嫡子退男之子女出子

之為伯父之事

每永二己三月  
上層長三所及伺

一家智お續て任憑從謂之々家智お續及被他人を出子被一憑从之  
子若も伯父の續成居右伯父死去の時忌服可五所及候哉

此附礼

書向之每伯父定式之振忌之

妾服之嫡子被の時事

元文二己年

建部丹波守及伺

一 妾服之嫡子准一家智被お續之子右祖父之妾父之実母あり  
右父之実母死去の時祖母定式之忌服之申又祖母之妾父之妾父  
服忌之申候之由所及候

此附礼

書向之每祖母定式之服忌之由所及候智お續不仕と拍之申事

但祖父之妾妻之出子と祖父定式の時右祖父之妾父

祖母定減之由

元文二己年

福清日向度及伺

先妻之嫡子之當吏

子嫡子之申事

一 吏死男子之家被お續死去右後他に嫁又男子お生の時之  
母之為先妻之嫡子たる處之由當吏之子之為嫡子也

同

嫡子之之家高之由右父嫡子定式の時之母之為嫡子也  
父嫡子定式の時之母之為末子也

嫡子退男出子退男の時

出父忌服之事

天明二十年五月

長山右衛門

一 嫡子存身有遺男為波他分波此女子は右嫡子に倅する人として右養子  
子に遺子波此女子は右養子に病身有為波遺男有養子に遺子  
に實孫に續くは右方嫡孫兼祖に波此女子は右遺男に遺子  
に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉

同

半面に遺子波遺男に養子に實孫に為是は相續命地配

尚七つに遺子に准一忌二十日服百六十日文に

二 父の身有遺男有波他分波此女子は右嫡子に倅する人として右養子に遺子波此女子は右養子に病身有為波遺男有養子に遺子に實孫に續くは右方嫡孫兼祖に波此女子は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉

末子十

忌十日

服三十日

養子に遺男有波他分波此女子は右嫡子に倅する人として右養子に遺子波此女子は右養子に病身有為波遺男有養子に遺子に實孫に續くは右方嫡孫兼祖に波此女子は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉

末子として家督可讓積る嫡子波此女子は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉  
忌は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉  
お父に家督お積自らの子と親しき女子は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉  
は耐自らに子自ら兄弟に續お積自らの子と親しき女子は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉  
可文に也

元文元年

父の身有遺男有波他分波此女子は右嫡子に倅する人として右養子に遺子波此女子は右養子に病身有為波遺男有養子に遺子に實孫に續くは右方嫡孫兼祖に波此女子は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉

元文元年

一 父子共に在公お勤者有父子に方言知に或別服出たお勤時父家  
督をお積他人波此女子は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉  
服忌は右遺男に遺子に實孫に為るは右父に右服忌を多文の中日に哉

書して終父の方を定式（毎）に忌二十日服十三月とて之より定父方と  
すし末子忌服十日二十日（毎）に又父の方を以て子の方とし末子の方を  
以て父の方と忌二十日服九十日（毎）に

同

父子は申すお初父の方を以て終父家督とし他人に申す  
は終父の方を以て終父家督とし終父方へ服忌を定式  
を以て父の方を以て終父家督とし終父方へ服忌を定式  
（毎）に又父の方を以て終父方へ服忌を定式

再同

一 追加す終父同姓とし其姓を以て人にお托し續き（毎）に終父方  
へ服忌の更（毎）に右（毎）に終父方へ附札とし（毎）に終父方へ服忌  
兼（毎）に

出子元能は終父完初（毎）に終父母忌服（毎）に地（毎）に  
終父（毎）に終父家督（毎）に終父方へ終父方へ終父方へ  
終父（毎）に終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父  
終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父  
終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父  
終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父  
終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父  
終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父  
終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父  
終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父

安永九子年

并終父終父終父終父

終父終父終父終父終父

一 終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父終父

母續おはれれば叙母に離縁あるは後年縁も断れぬ事なり  
叙母死す時何れも服忌有りおは得る事なり

同

一 虫の毒に害出方没身女祖父に若女におはれば嫁に  
波離縁祖父の方におはれば病身も嫡子退身も若女子  
准一右若女死すに若女の方没身没身服忌文に実方親  
類におはす定式に返服忌文の事有没身女定式に返服忌文  
一 右女系祖父波出若女に何れも養父に右女を嫁に續けられれば  
何れも妹に續けられれば右女死す時何れも兄に服忌文有りおは得る事

同

前條に下ヶ札を分る

但右養女離縁に注はれれば兄弟甥も人定式に返服忌文

日 振高若女方親類実の事一若女母に二十日十三月父に若女  
母の方口も十日二十日一服忌文に其外親類におはす定式に返  
くおはれれば何れも但若女に波出に何れも入舞も不縁も不  
何れも服忌令初ヶ條に返服忌文の事有没身女定式に返服  
忌文の事有没身女定式に返服忌文の事有没身女定式に返服

同

書面(返)に有

末家におはす若女子又  
本家におはす若女子の事

母永八亥年五月  
南都大膳堂及分同

一 南都大膳堂嫡子修理定法古大膳堂末男と一返末家首親類  
若女子におはす若女子の事

長九郎并同人娘初而長九郎に付向く親類大忌服は終極迄是等  
お好の申は也

曰

虫面は通て一旦末家へ養子にお成家智お續き是  
之戻り本家へ養子にお成はれ其完初へ養子とて是  
方末家へ養子とて是の成へ養父并姉妹とて是  
親類へ服忌せ

一旦養子にお成又他家お續き事

母永八亥年八月  
長山左左内

一 他家に養子とて是の家へ又他家お續はれ其服忌は清く申

曰

書面は通て完初へ是方服忌せ

一 死去の者へ男子或人より知少く有他家へ被り養子家智お續は  
被り右へ養子或人へ内嫡子とて是右養子へ嫡子次男へ他家  
お續へ養子とて是の成は次男へ為り実方養父へ服忌は向  
文の中へ申は也

曰

書面は通て死去の者へ男子或人より知他家へ被り  
子家智お續き是の成は右へ人へ男子被り養子  
次男へ他家お續へ養子とて是の成は次男へ為り完初へ  
是の成は父服忌せは併実方へ完初見申へお成は是の成  
兄へ是の成は減へ服忌は向

養子となし是の成は父へ実母妻へ事

元文二巳年  
建了丹波守辰内



一 出子死すとの家督お續し時出父は実母祖父は妻の父  
服忌父の事

曰

出るは逐家督お續し出子に而し出父は実母妻  
より出父を服忌は

卷母と連他家お續し事

安永八亥年正月  
仙石岩部少輔辰吉

一 卷子と兼出父死をる忌服も父家督もお續しはとて  
謂ふは家法以絶し右出母とつまはる又亦は出子と兼  
し耐右完初は出母忌服も父の事但出子  
し兼は出父初は出父母忌服は及兼は出は是は一旦

出父は忌服と父家督お續したは事は出右出母  
服忌父の事しは初は出父の事は出父の事

曰

書面は逐出子と兼り家法絶しは耐出母を  
連又亦は兼りは而も完初は出父服忌は

出子死すとの家督お續し時出父は実母祖父は妻の父  
服忌父の事

夫の父母<sup>十一</sup> 忌三十日

服百五十日

夫の父母といふハ舅姑の事也。年齒子波ハ若くは夫の  
実方の父母ハ夫の父母とも服忌あり。夫の此父母を夫  
の父母といふる則忌服三十日百五十日也。物忌ハ女縁者  
しもも養女といふは次してハ夫の親類服忌あり。夫  
の父母計服忌ハ夫の父母に妻死すの時ハ妻  
の子の妻を夫服忌ハ右ハ妻由縁正しく親類也。もし  
女縁者計の事ハ此ハ舅姑同族としてハ妻に忌服ハ  
ハハハ家女といふは姑を妻に服忌あり。

夫の父母<sup>十一</sup> 忌三十日

安永八亥年八月  
長山居何何

一 夫の父母を二十日百五十日と服忌令へるハ夫の此父母実父母  
にも服忌は同族ハ此也

曰

此而ハ通ハ夫の養父母定式ハ通ハ夫の父母  
服忌ハ

婚姻新お海流儀ハ元智内ハ夫の父母服忌ハ

此例ハ追加ハ七ヶ条目ハ

夫の継母<sup>十一</sup>

安永八亥年  
他各条ハ少補版ハ

一 嫁ハ此ハ舅姑夫の継母ともハ附ハ右妻にハ夫といふは姑の母  
或忌服ハ嫁姑ハ忌服三十日百五十日ハ夫の父母但父ハ夫の継母

忌後十日二十日迄の中日はたはり妻の方には忌服をく文は  
お成はけ先別りの中はたはり

日

書面は返はましく継母服忌を

祖母 十三

忌二十日

服百五十日

母方

忌二十日

服九十日

離別せしむるに祖母も服忌先別り

人々養子と兼は実方祖母は減の忌服有り  
母伯叔父姑より可入組して養子と兼はとも減あり  
外は減は縁之と事なる事とも実祖母におかて服忌別  
縁前祖母の親類なるは祖母に服忌不更は祖母  
他は嫁に或は離別せしむるにも服忌の更は  
父妾服に子に継母に養子と兼は縁前を著したる  
実祖母実式に忌服するは父嫡母に子に継母に  
子に成るる時其継母に親類服忌に准は祖母忌服更

不中

娘に召養女と云ふ養女は又外に嫁しは男子を以て  
比延ま病身は嫡子退身波一か知智お續り波右支身  
嫡子と生家智お續波し之後右兄と男子と叙父家  
智お續り養子と波しは方叙父支婚は出父母にお成は  
右養子にお成は男子の實母に養方并實方方と祖父母  
伯叙父姑半減し服忌は祖祖母伯叙父姑し方是孫并  
甥し忌服之し故身はお守り服忌之し

母方祖父母養實し事

安永八亥年八月

一 母方祖父母實父母並服忌日依る母方祖父母定式し忌服

出方祖父母

出方祖父母養實方父方は嫁し依るお守りし方は出方  
出方祖父母定式し忌服は實方祖父母半減服忌日

祖父母し方は流身養子し事

元文元辰年十月  
松平總領及取合向

一 祖父母し方は流身兄弟姉妹し内養子と云ふ時伯叙父  
姑し服忌之文し依る

日

書面し依る

母し實母並祖母し續し事

明和女子年三月  
毛利養之助及向

一 養之助母と名居伴賀書同服し姉と名居丹波書妾服波



祖父之妻之母方祖母之事

安永二己年三月  
河井頼茶子辰子同

一 母方祖母之節目之先右服忌有之 後服忌は左方好

比附札

書面之返之母方妻之向も母方妻之節目之先別  
祖母定式之服忌之向也

父之実方祖母祖父之妻之時之事

安永二己年八月  
宮城久之原宮子同

一 叔父之实方祖母松平肥前守方之孫を以て家女を以て服忌  
忌之定式之返忌二十日服百二十日忌服父の事也

書面之返ハ父之实方祖母半減之服忌之向也

曾祖母 忌二十日 服九十日

母方之報忌之 但遠之忌一日有り

離別の曾祖母実蹟之 時々同例有り人の世に字を成たる

時ハ服忌之 母方ハ元分報忌之 遠之忌一日有り

● 曾祖母之附一日の忌之也也也也 初月報忌之 中世の世に字を成たる

之 祖父母方祖母遠之忌日教也

安永二己年二月  
久世書雲子辰子同

取之附之事

一 母方之 曾祖母母方祖母服忌之 遠之忌一日在日教也此取  
之 遠之忌不及此之好也

書面之返ハ遠之忌之

曾祖母方祖父之妻之事

安永二己年七月  
松平信之允殿令伺

一 養父母方松平龜松祖母松平對馬守家女右對馬守儀之由  
時松平長門守家之由儀右家女儀私龜松出子之儀成儀  
曾祖母之儀三女成儀忌服儀守伺

曰  
由儀之儀三養父母方曾祖母服忌之一日之遠意三由

父之母方曾祖母之事

宝曆八十年七月  
小笠原若狭守及令伺

一 曾祖母忌二十日服九十日母方中服忌之但遠意一日右之由定  
式之儀儀儀父之母方曾祖母父也二十日九十月之忌服文之由

得夫父方之由忌服文之由父之同儀儀松出方父之母方  
一日之遠意之由之由

曰  
由由之由八父之母方曾祖母一日之遠意由府公儀父  
母之祖母妻之由親由由由儀儀之由同之由府公儀父  
母之曾祖母一日之遠意及由由之由祖母父之為養母  
之由之由妻之由由由儀父之母方曾祖母一日之遠意由

祖母<sup>十五</sup>

忌十日

服三十日

母方より服忌なく但遠慮一日

離別の言祖母を既定式も返也実方言祖母古手服忌  
なく波離縁元家三姑を以て実元初しく定式も返  
服忌父より初白出実と一度出向も離縁なく里方口  
戻はゆる元のこと一法親類服忌父より母方より祖母  
母祖母遠慮日数控て兼ゆる追白遠慮も及り此礼  
儀々条々より父実母方言祖母母祖母遠慮も  
なく申儀の々条々より

伯叔父姑<sup>十六</sup>

忌二十日

服九十日

母方 忌十日

服三十日

父母稱替兄弟姉妹半減服忌て更

父母稱替りといふ親類父兄弟姉妹は子伯叔父姑半減  
とす事なり

人の名を以て半減服忌也却白実方言祖母伯叔父  
姑は母祖入組して幾子も出向も半減分り  
服忌切事なり父母稱替り兄弟姉妹子も出  
実の親を以て半減更は儀則定式返返巻実を  
出向も右半減半減も出向も父方稱替りの伯叔  
父姑も忌五日服廿二日あり母方稱替りの伯叔父姑も  
忌三日服八日也終後礼にお見出向も妻妾同し附礼は未巻

伯叔父姑<sup>十六</sup>



伯叙父姑姪の續をいつき成て一方當子と来る白先のいゝ  
お續いゝし時々伯叙父姑は減く服忌又々伯叙父姑  
方に留姪の服忌を則片根忌より叙父死去右叙父  
身家お續波しは流中續はる実叙父は減  
く服忌を叙父方に実續物をもり當子に成  
忌服をい海大當方流中おぬは流中定式  
く忌服をい勿論父方母方と同例あり

父母稱替く伯叙父姑人  
忌服忌服一事

安永十七年二月  
久世書屋書院分館

一 吳父兄身の子を伯叙父姑人當子とて其減く服忌を白  
十六日更中儀は部

此階札

此書面を返す父母稱替く伯叙父姑人當子とて其  
減く服忌を白十六日更中儀は部  
但母方忌五日服十六日更中儀は部

伯母并婦人く當子をおぬ事

天明元正年七月  
沼井九馬尉殿分館

一 尚沼井存の尉祖母右々尚松平安蔭を祖父安蔭を娘とて  
松平加賀守綱紀養女を其酒井家と嫁し中其孫居但馬守実  
姉安蔭を實伯母とて其度忌服を流中儀は部

曰

此而く返す但馬守方姉は減く忌服安蔭を方伯母は減  
く服忌をい

葬中

甥の如智伯父波お續し附々甥と出父のこゝろ二十日十三日服忌  
清く伯父と甥の方には嫡子定式と毎服忌更には伺や安永二年  
十二月三日松平丹波より及より此伺に附札の甥姑に之條に記す

母方叔父母出方又流中事

安永八年八月  
長山庄より伺

一 母の出方と流中母の實方と兄弟の續く者死去時  
子に為出方と流中母の流中と子に流中遠実方と元  
出方叔父の續く出方叔父の續く出方叔父の續く出方叔父の續く  
二十日と出方叔父の續く出方叔父の續く出方叔父の續く出方叔父の續く

曰

出方と流中と人にお出方と流中と時をきき方と忌服更  
事より母方叔父出方叔父の續く出方叔父の續く

親の如父兄弟叔父甥事

安永八年八月  
長山庄より伺

一 親の如父兄弟叔父甥の續く出方叔父の續く出方叔父の續く出方叔父の續く  
同

書面と毎ハ父母種叔父甥お守り出方叔父の續く出方叔父の續く

伯父の方兄弟出方子と来事

元文元年八月  
松平總屋及及伺

一 伯叔父姑の方兄弟姉妹の内出方子と来事の時ハ流中と忌服  
の更事と出方叔父の續く出方叔父の續く出方叔父の續く出方叔父の續く

曰

出方と毎ハ実方兄弟姉妹の服忌出方叔父の續く出方叔父の續く

父之実方叔父之事

安永二己年二月  
鹿門紀伊守殿

一 父之实方叔父右服忌語方よりん得て申出

曰

虫面之趣ハ父之实方叔父半減ノ服忌也

父之实方伯叔父姑人出時之事

右同  
久世市書殿

一 父之实方兄弟姉妹より人へ出時之趣ハ伯叔父姑半減ノ服忌也ハ儀ト存好

曰

虫面之趣ハ

父之实母毒より一日申出  
嫁ノ又門元並此事

安永二己年六月  
大田原市書殿

一 大田原市書殿之实母亡父死後申出時ハ申出方ハ甚重ハ申出  
申出方ハ門元ハ分ハ重ハ申出方ハ定式之趣ト存好右実  
母儀申出方ハ嫡子山城守実祖母より申出方ハ元初申出方ハ  
申出方ハ忌服ハ儀ハ申出方ハ

此階札

虫面之趣ハ父之实母元初申出方ハ甚重ハ申出方ハ祖母定式ノ  
服忌也

申出方ハ他ノ養女ハ父方ハ嫁此事

安永二己年六月  
稻葉浦市書殿

一 母方叔母実之曰淡路守娘小之系就中も妻右叔母後私母之兄  
弟之右は淡路守之母後之曰古淡路守致茂女父就中も方は嫁しは  
續遠子成は為実八母方叔母お遠之を以服忌之為念起り也

曰

虫面之趣ハ母之実方叔母也減之服忌之旨也

祖父之養女嫡孫弟祖之伯母續之事

昭和八年九月  
お馬淡波守殿分伺

一 お馬渾正少弼養女久保玄蕃改妻右之女也渾正少弼伯父  
宋女娘之右は方は伯お馬淡波守之為也又後身之續は方は玄蕃  
改方は元是也良渾正少弼養女之縁絶は淡波守也嫡孫弟祖  
之為念起りは服忌之旨也

曰

虫面之趣ハ淡波守祖父渾正少弼養女お敬玄蕃改方は嫡  
孫弟祖之為念起りは服忌之旨也又後身之續は方は玄蕃  
改方は元是也良渾正少弼養女之縁絶は淡波守也嫡孫弟祖  
之為念起りは服忌之旨也

父子之伯父之事

昭和八年九月  
水谷洋智守殿分伺

一 父出子之右は方は実方之右は方は右実父之実方伯父之服忌  
之旨也

曰

虫面之趣ハ父之実伯父也減之服忌之旨也

伯父母様暫高他家お續之旨也  
曰例出減之事

昭和八年八月  
酒井之貞守殿分伺

年虫

け同矣父兄弟のケ条之記之妻に在りしを以て辨別す  
伯父他家に續けりしは其家にお見出方ありし也

一 夫父兄弟姉妹の子孫お承り忌服あり

一 甥姪右異父に續けりし時忌服あり

同

此處に及ばぬ夫父兄弟姉妹の伯父母に服忌半減と由るは古  
他家に續けりしは忌服同例

一 伯父母に方お甥姪に忌服半減忌二日服に日と由るは古

他家に續けりしは忌服半減忌一日服に日と由るは古  
忌服あり

叔母曾祖父に養女お承り

元文二己年八月  
妻友同孫助後同

一 叔母自ら助婢妻友氏に於て養女と妻有る氏に伯母妻友

大和と娘有る實は伯母と由るは曾祖父先妻友對馬と右叔母を

和泉と方に也夫を九年己未養女に縁組一所に於て是は

法月山に於て未婚お誓ふに右に也此は伯母大叔母に續けりし

は忌服氏親より法月のや七載未滿と忌一日敷遠と由る事

と由るは也

同

叔母自ら祖父先對するに養女に由る氏親が大叔母に續けり

お承りは夫と由るは續けりしは之を方と由るは實叔母に

減り服忌あり

但叔母より方に甥に服忌之に但七年未滿に小忌に  
服忌之に一日に遠慮するに日数に七七日及遠慮に

兄弟姉妹<sup>十七</sup>

忌二十日

服九十日

別腹者りといふとも服忌先別之に

人の出立子に成たる時父実方兄弟姉妹お母に半減に服  
忌といふ女子に成る女に成る年養子に嫁しは或は父  
方の他は嫁しは母実方半減に服忌といふ茶室も記  
し母伯父母叔父母祖父母兄弟中いふ極に成る子に成る時  
も同様之事に半減より外に服忌極にいふお母に  
婿子成るその本家に成る子にお母に己好実父成る子に  
時実方より成る兄弟中半減に服忌といふ  
伯母先を他は縁付するに後甥も他は養子に成る  
は延養者か右実伯母方に成る智お續に養子に成る時

伯母ハ出書ニお出且宛初ニ出方迄親類宛方ニお出  
ノ下出書ニお出姑兄中妹ノ服忌々々ニ養母方ニ  
續流服忌更ノ下出宛ニ兄中姉妹ニ養母方ニ續  
お出一旦養子ニお出右養家方又外ニ出方子孫親類等  
宛初ニ出方ハ服忌々々ニ若元分續々ニ出方ニ續  
出減ノ服忌更ニ元元本宛父方祖父母伯叔父姑々  
出減ノ服忌更ニ兄中姉妹も若人ト出極ニ續々ニ時々  
重き方ノ服忌更ノ事ト出宛出減服忌々々  
身寄兄ノ出方子ニお出出宛宛父伯叔父姑ニ續ニお出  
右伯叔父姑ニ出方出減ノ事ト出宛出減服忌々々  
出減ノ服忌更ニ

一 父子別ニお勤父地所分致出方子家智お續ニ時々養子ト

出方子ノ出方方兄中姉妹お出出宛出減服忌々々出方出  
子ノ出方子ト出方甥姪ト出方出宛出減服忌々々

一 養妹ニ出方事お出出方出減服忌及沙汰出方出減服忌及  
出方出減服忌及出方出減服忌及出方出減服忌及

養子并養子と妻ト出方出減服忌及出方出減服忌及  
出方出減服忌及出方出減服忌及出方出減服忌及  
出方出減服忌及出方出減服忌及出方出減服忌及  
沙汰相極出

兄中家来ニ家お續波々々

安永八年十月  
松平信重殿ノ布

一 私家年名記中 有正徳川外記 宿年 變出 中 有 許  
去七月於大坂表死去は 伯父 叔父 忌中 有 正徳川外記 有 正徳川外記

七月十五日

松平侯家書

別紙

私家年名記中 有 正徳川外記 宿年 變出 中 有 許

忌十日

服日十五日

右 海内 氏也

七月十五日

朱書

右 侯家書 叔子 伯父 半減 正徳川外記 有 許 變出 中 有 許

服忌 事ハ 婦 他 日 婦 兄 妻 子 養 女 正 徳 川 外 記 有 許  
服忌 事 正 徳 川 外 記 有 許 伯 父 半 減 正 徳 川 外 記 有 許  
正 徳 川 外 記 有 許 伯 父 半 減 正 徳 川 外 記 有 許  
正 徳 川 外 記 有 許 伯 父 半 減 正 徳 川 外 記 有 許

兄 養子 正 徳 川 外 記 有 許

宝曆六年

伯叔父 姑 續 事

松平丹波守 侯 家 書

一 兄 養子 正 徳 川 外 記 有 許 兄 中 姉 妹 伯 叔 父 姑 續 事 正 徳 川 外 記 有 許  
或 正 徳 川 外 記 有 許 伯 叔 父 姑 續 事 正 徳 川 外 記 有 許  
半 減 忌 服 正 徳 川 外 記 有 許 伯 叔 父 姑 續 事 正 徳 川 外 記 有 許  
正 徳 川 外 記 有 許 伯 叔 父 姑 續 事 正 徳 川 外 記 有 許  
正 徳 川 外 記 有 許 伯 叔 父 姑 續 事 正 徳 川 外 記 有 許



曰  
虫面（返）白

他日養子と兼は右伯父忌服事  
右同前同

一 兄の養子と兼は兄の姉妹他日養子と兼は續て伯叔父姑  
他日養子と兼は伯叔父姑忌服事  
實兄中忌服の服忌更右他日養子と兼は子大実甥姑と兼  
流中の續におは志の流中他日養子と兼は子大実甥姑と兼  
日大実伯叔父姑忌服の服忌流中他日養子と兼は

曰  
虫面（返）白

兄中書家の流中事

元文元年  
一柳公純少輔殿同

一 兄弟の内書家の流中事  
寺住職他日養子と兼は養子と兼は服忌定  
式と在好

曰  
虫面（返）白

暖日兄弟伯叔事

宝曆三年九月  
松平直房殿同

一 父の妻の姉服誓の姉妹と兼は子と兼は母方姑の  
續におは右姑死去の時甥の忌服中他日養子と兼は流中  
おは是におは服忌中

書面之通ハ母ノ姉腹暫ク而子ニ先別母方伯母定式

忌服ニ由ル

但右伯母ノ子是又後身定式ノ忌服ニ由ル

嫡子出子ノ孫ニ男次男

元文四年

出子ノ孫ニ事

本多中督之輔及同

一 父嫡子即養子ノ孫 女子死 嫡子即出子ノ孫 孫ノ孫ノ孫

出子ノ男右次男ノ養子ノ孫 家督ノ孫ニ由ル男即出子ノ

孫ニ由ル

一 嫡子ノ男ハ伯父甥ノ孫ニ由ル事 方伯母即出子ノ孫ニ由ル

出書

出書而服忌ノ儀ハ人ニ由ル 男被下ケ札所又ハ初身

右ノ意味ヲ記

出書書ノ通進加十ヶ条目ニ由ル 出書方伯母ノ孫ニ由ル

出書向味被ノ儀ハ 出書而親類ノ服忌ノ儀ハ養子ニ由ル

出書ノ孫初身被ノ儀ハ 出書ノ子ハ 方伯母ニ由ル 出書ノ孫

出書ノ定式ニ由ル 出書ノ父ノ子ノ方伯母別後身ノ事ハ

方伯母ノ日數拍ノ事ハ 子ノ服忌法方伯母ノ節ノ儀ハ

下ケ札ノ通進書後口同儀ハ 出書ノ孫ニ由ル 孫ニ由ル

出書ノ下ケ札ハ

一 出書ノ人ノ事ハ 出書ノ事ハ 出書ノ事ハ

養子<sup>十一</sup>

忌十日

服三十日

家智<sup>之</sup>定<sup>之</sup>時<sup>之</sup>嫡子<sup>之</sup>服忌<sup>之</sup>文<sup>之</sup>

出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>親<sup>之</sup>出<sup>之</sup>先<sup>之</sup>未<sup>之</sup>法<sup>之</sup> 後<sup>之</sup>時<sup>之</sup>之<sup>之</sup>内<sup>之</sup>養<sup>之</sup>子<sup>之</sup>死<sup>之</sup>去<sup>之</sup>波<sup>之</sup>公<sup>之</sup>  
出<sup>之</sup>父母<sup>之</sup>之<sup>之</sup>方<sup>之</sup>に<sup>之</sup>服<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>多<sup>之</sup> 出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>之<sup>之</sup>方<sup>之</sup>是<sup>之</sup>出<sup>之</sup>父母<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>日<sup>之</sup>  
十三<sup>之</sup>月<sup>之</sup>の<sup>之</sup>文<sup>之</sup>之<sup>之</sup>是<sup>之</sup>と<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>の<sup>之</sup>時<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>一<sup>之</sup> 定<sup>之</sup>方<sup>之</sup>親<sup>之</sup>於<sup>之</sup>各<sup>之</sup>  
清<sup>之</sup>の<sup>之</sup>親<sup>之</sup>お<sup>之</sup>海<sup>之</sup>家<sup>之</sup>智<sup>之</sup>之<sup>之</sup>定<sup>之</sup>九<sup>之</sup>時<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>減<sup>之</sup>之<sup>之</sup>成<sup>之</sup>茶<sup>之</sup>子<sup>之</sup>傳<sup>之</sup>妻<sup>之</sup>友<sup>之</sup>  
五<sup>之</sup>の<sup>之</sup>日<sup>之</sup>

一 養方<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>中<sup>之</sup>親<sup>之</sup>お<sup>之</sup>海<sup>之</sup>以<sup>之</sup>強<sup>之</sup>日<sup>之</sup>教<sup>之</sup>て<sup>之</sup>五<sup>之</sup>の<sup>之</sup>出<sup>之</sup>父母<sup>之</sup>家<sup>之</sup>清<sup>之</sup>出<sup>之</sup>以<sup>之</sup>葉<sup>之</sup>

之<sup>之</sup>高<sup>之</sup>字<sup>之</sup>合<sup>之</sup>言<sup>之</sup>と<sup>之</sup>波<sup>之</sup>一<sup>之</sup>又<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>遠<sup>之</sup>時<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>法<sup>之</sup> 後<sup>之</sup>時<sup>之</sup>の<sup>之</sup>の<sup>之</sup>

養子<sup>之</sup>定<sup>之</sup>方<sup>之</sup>に<sup>之</sup>門<sup>之</sup>九<sup>之</sup>の<sup>之</sup>日<sup>之</sup>一<sup>之</sup>且<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>は<sup>之</sup> 後<sup>之</sup>時<sup>之</sup>の<sup>之</sup>名<sup>之</sup>目<sup>之</sup>の<sup>之</sup>友<sup>之</sup>

定<sup>之</sup>方<sup>之</sup>親<sup>之</sup>於<sup>之</sup>半<sup>之</sup>減<sup>之</sup>之<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>服<sup>之</sup>也<sup>之</sup>右<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>に<sup>之</sup>依<sup>之</sup>り<sup>之</sup>て<sup>之</sup>後<sup>之</sup>又<sup>之</sup>外<sup>之</sup>に<sup>之</sup>

五<sup>之</sup>の<sup>之</sup>日<sup>之</sup>に<sup>之</sup>離<sup>之</sup>縁<sup>之</sup>之<sup>之</sup>法<sup>之</sup>を<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>服<sup>之</sup>お<sup>之</sup>違<sup>之</sup>は<sup>之</sup>は<sup>之</sup>法<sup>之</sup>

同

出<sup>之</sup>面<sup>之</sup>祖<sup>之</sup>出<sup>之</sup>之<sup>之</sup>返<sup>之</sup>離<sup>之</sup>縁<sup>之</sup>之<sup>之</sup>波<sup>之</sup>の<sup>之</sup>法<sup>之</sup>は<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>地<sup>之</sup>配<sup>之</sup>也<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>は<sup>之</sup>

准<sup>之</sup>出<sup>之</sup>方<sup>之</sup>親<sup>之</sup>於<sup>之</sup>定<sup>之</sup>式<sup>之</sup>之<sup>之</sup>返<sup>之</sup>服<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>也<sup>之</sup> 定<sup>之</sup>方<sup>之</sup>親<sup>之</sup>於<sup>之</sup>半<sup>之</sup>減<sup>之</sup>服<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>也<sup>之</sup>

安永九子年八月

解養子退身<sup>之</sup>時<sup>之</sup>之事

竹中之膳及<sup>之</sup>同<sup>之</sup>

一 解<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>竹<sup>之</sup>中<sup>之</sup>に<sup>之</sup>京<sup>之</sup>右<sup>之</sup>に<sup>之</sup>指<sup>之</sup>者<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>也<sup>之</sup>及<sup>之</sup>出<sup>之</sup>處<sup>之</sup>病<sup>之</sup>解<sup>之</sup>身<sup>之</sup>嫡<sup>之</sup>子<sup>之</sup>退<sup>之</sup>身<sup>之</sup>  
に<sup>之</sup>京<sup>之</sup>嫡<sup>之</sup>子<sup>之</sup>原<sup>之</sup>に<sup>之</sup>進<sup>之</sup>掃<sup>之</sup>と<sup>之</sup>嫡<sup>之</sup>孫<sup>之</sup>祖<sup>之</sup>に<sup>之</sup>お<sup>之</sup>か<sup>之</sup>り<sup>之</sup>流<sup>之</sup>之<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>服<sup>之</sup> 後<sup>之</sup>時<sup>之</sup>同<sup>之</sup>也<sup>之</sup>

同

出<sup>之</sup>面<sup>之</sup>祖<sup>之</sup>之<sup>之</sup>返<sup>之</sup>離<sup>之</sup>縁<sup>之</sup>之<sup>之</sup>法<sup>之</sup>は<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>斗<sup>之</sup>地<sup>之</sup>配<sup>之</sup>也<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>は<sup>之</sup> 後<sup>之</sup>時<sup>之</sup>の<sup>之</sup>名<sup>之</sup>目<sup>之</sup>の<sup>之</sup>友<sup>之</sup>  
に<sup>之</sup>時<sup>之</sup>に<sup>之</sup>家<sup>之</sup>智<sup>之</sup>之<sup>之</sup>定<sup>之</sup>式<sup>之</sup>出<sup>之</sup>子<sup>之</sup>の<sup>之</sup>法<sup>之</sup>と<sup>之</sup>一<sup>之</sup>忌<sup>之</sup>十日<sup>之</sup>服<sup>之</sup>三十<sup>之</sup>日<sup>之</sup>と<sup>之</sup>法<sup>之</sup>

他、娘貫玉嫡子一系、  
波止時出女、忌服忌事

明和二年  
細川御中子辰合伺

一 他、波養女之家、嫡子、姪、波止、忌服、忌事、家、お續、出、子、同、此、而、出、実、先、別、服、忌、令、出、而、忌、事、也、也、也、

曰

書面、出、女、之、忌、姪、波、養、女、子、と、知、お、波、養、女、  
出、女、之、嫡、子、之、嫡、子、は、忌、服、忌、事、先、姪、之、出、女、  
終、り、波、養、方、而、忌、服、忌、事、不、沙、汰、也、

人、娘、波、養、女、の、事

安永九子年三月  
長山彦吉伺

一 人、娘、と、波、養、女、外、に、縁、附、出、女、入、嫁、を、元、家、智、お、續、也

養子娘并右出娘、子服忌事

元文三年六月  
松原辰辰伺

一 養娘、服忌、何、文、の、中、也

曰

養娘、服忌、た、た、波、養、女、一、下、通、り、而、も、又、波、養、女、と、  
他、に、縁、附、出、女、入、嫁、と、元、家、に、忌、十、日、服、三、十、日、而、も、但、婚、嫁、  
而、も、出、娘、に、忌、服、忌、事、不、沙、汰、也、

一 養娘、子、方、服忌、何、文、の、中、也

曰

出、娘、之、子、共、服忌、波、養、女、と、他、に、縁、附、出、女、之、子、共、忌、  
三、日、服、七、日、而、も、但、出、娘、に、忌、服、忌、事、不、沙、汰、也、

娘の子婿嫁に付ては、若娘の子服忌也

養娘を云ふは、若者に付ては、事

安永二己年四月  
二波漢語考原今詞

一 養娘は此に嫁し、不中由事云ふ亦お勤し若父母忌服三十日  
百六十日高由事此に右若娘お果は若養方足事お由事減  
忌服文に云

曰

書面云云

養娘入嫁と元若方足事 右曰新今詞

一 養娘は此に嫁し、高にお由事減し忌服は、若娘は此に嫁し、元若方足事

若父母忌服亦智お續し、若子同根十日十二月に由事此に

曰

書面云云

一 右若娘お果は若方足事お由事定式し服忌云由事此に

曰

書面云云

若白養女不致縁組  
若若女格出時事

安永二己年四月  
酒井九傳門尉原今詞

一 若若女不致縁組し、期に若始に婿姻お惣若始死云由事此に  
若若美服忌語方々若女定式云云此に

曰

書面に「母を尊ぶ」旨の記述あり。お格縁組に於ては、お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。

養子と又外口養子也此事

明治八年九月  
酒井九郎門尉殿

一 他家の養子被立右養子と又外口養子と也此等の家は、お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。

曰

書面に「母を尊ぶ」旨の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。

実子武令と被立右養子也此事

右同所分同

積出産の養子か実方甥に續出産也

曰

書面に「母を尊ぶ」旨の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。

一 嫡子と女子とお格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。

曰

書面に「母を尊ぶ」旨の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。お格縁組の記述あり。

養妹を被立右女也此事

安永三年奉同

一 水野九郎が遺書に和泉守が養父に遺物贈るに及ばず先を而  
和泉守が遺女に九郎が遺書に和泉守が遺女に和泉守が遺女に  
和泉守が遺女に九郎が遺書に和泉守が遺女に和泉守が遺女に  
和泉守が遺女に九郎が遺書に和泉守が遺女に和泉守が遺女に  
和泉守が遺女に九郎が遺書に和泉守が遺女に和泉守が遺女に

曰

云云云云八巻妹を遺女にお教入奉ると云はれぬ様定式  
云云服忌云云

異父兄弟姉妹 忌十日 服三十日

一 服別種ありハ皆実父兄弟也又後妻は重んじ其  
の子連來を以て後養子といふハ時連來の子と異父兄  
弟同例ニ似後妻の連子と夫が遺子に決まらずに又後  
妻の子に決まらずに兄弟姉妹服忌同例云

一 父の妻は嫁一又ハ昨ホ一也此ハ云々也実母や定式云云  
云云及云他に嫁一先云云云云子云云異父兄弟云云  
云云及云他に嫁一先云云云云子云云異父兄弟云云  
の親類云云も書出は親の妻云云異父兄弟同例云云家  
女云云及云他に嫁一先云云云云子云云異父兄弟云云

一 母方祖母再嫁し先高有し子母の爲吳父兄弟有る者  
母方叔母生減し服忌むる先高有し子母の爲吳父兄弟有る者  
吳父兄弟有る子母生減し服忌むる先高有る者  
子母有る祖母養子被忌むる先高有る者

吳父兄弟有る准忌服之事

安永八亥年七月  
田村下流書後分回

一 何系娘に被嫁し其子何系死後妻野村織吉有る後妻  
お成は右後妻に被嫁し己後初更養子にお成は依り織吉有る并  
後妻初更を其母也右何系に娘並養子に初更をいふ吳  
父兄弟有る准忌服之事

曰

吳父兄弟有る准忌服之事

妻高も一服お稱す吳父  
兄弟有る事

安永八亥年八月  
長山在右回

一 吳父兄弟有る妻高も一服お稱す也ハ忌服同根也此  
曰  
出而し母ハ妻高も此等服忌不及沙汰也

親吳父兄弟有る子流骨同士之事

右同人回

一 親吳父兄弟有る子有る後妻に續居る所被忌むる事



曰

出而之也吳父兄弟之子大泣身ハお守之服忌之

吳父兄弟之子大泣身ハ服忌令

安永三年九月

之有挨拶之

友賞和泉守殿同

一

吳父兄弟之子若死去之是ハお守之泣身半減之忌服忌  
此後所立此令之也此所立有改忌之也

曰

出而之也ハ服忌令之之ハ有服忌後沙汰ハ但吳父兄弟

之子若死ハ婿之續ハ身半減之服忌之也

後妻連生ハ子ハ吳父兄弟之

日未年八月

林博海野守殿同

一

和同勅老ハ中忌娘後妻連生ハ山崎武老ハ一方ハ再嫁ハ其有  
仕ハ之後武老ハ婿之連生ハ娘之服忌ハ何ハ元ハ且又右色  
其ハ娘成人ハ其他家ハ養女ハ先老ハ其ハ繼父武老ハ其  
来ハ娘ハお守之服忌ハ何ハ元ハ

曰

出而之也ハ初老ハ後家娘ト云色武老ハ一方ハ再嫁ハ

お守之婿ハ其色ハ娘ハ吳父兄弟定式ハ服忌ハ其

女成人ハ其他家養女ハお守之婿ハ其色ハ初老ハ

准服忌之

但右後家若老ハ女他家養女ハお守之婿ハ其色ハ初老ハ

其色ハ吳父兄弟半減之服忌ハ其

吳父兄弟を他家お續け時事

昭和八年四月  
同村下編考友会同

一 吳父兄弟を忌十日服三十日他家お續け時事左に服忌半減法  
以後に他家服忌令吳父兄弟をケ条下に右に記す所は各地  
苗お續け時服忌令他家お續け時事左に記す所は各地

書面にて吳父兄弟を他家お續け時事左に記す所は各地

嫡孫<sup>十九</sup> 忌十日

服二十日

嫡孫兼祖弟親附嫡子に服忌の文に祖父母死去に附嫡孫  
に方にも卒日十二月に扱忌の文に以て親附服忌を各  
男孫玄孫たりといふこと同例也

嫡孫ハ嫡子抱子あり嫡孫なるも末孫なるも養子を是れは服  
忌を孫に孫に方にも実方祖父半減服忌といふ

一 養父死に當り祖父の嫡孫弟祖たるにの養祖父母に十日  
十二月忌服文に養父に妻數年養育と文は他家智お  
續せざる一區の養母に當り三十日百五十日の服忌といふ

本文養子を是れは他家に嫡孫兼祖にお附時忌服本文に當り  
母に當り三十日百五十日の扱忌といふは養祖父母に當り  
母も忌に十日服十二月文にその養父兄弟姉妹お守り定式に

服忌之日

公儀由之令之上お柱比年寄元江信節の府文政九年九月二日

一 嫡孫系祖遠由にお敬未中付

安永九年子三月

二 内祖父死去の事

長山庄七島同

一 嫡孫系祖の係遠由にお敬未中付内祖父お果は元忌服之方

日教の係右死去の日お祖父の服忌之忌は後祖父敬由の係

嫡孫系祖に付しりて身五十月十三日服忌之忌は内祖父敬由の係

由は内祖父中へ更元を後死去お智く内定内高も内祖父中

五十月十三日の更ともは内祖父に准り系祖の敬由之文は

由は内祖父にお智くともは元忌の日五十月十三日更の係

日

由の係内祖父の事

嫡孫系祖系孫出子之事

元文二己年

小笠原信元

一 嫡孫系祖右祖父母死去の時嫡孫の方は五十月十三日服忌之

忌は内親の服忌之忌は内祖父にお智く如養子親にお子に服忌

法は事内存内嫡孫系祖の係との実績之係親にお子に服

忌は内

嫡孫系祖の係は元忌の祖父母と嫡孫の父の如く之の事にお子に親の

お子に実績之係の報忌之係

一 嫡孫若子右祖父之若子、若子右祖父と同日十二月、服忌信の如  
他親族と孫實續、通服忌の信は如

曰

由而、通孫若子、後、他之家分、如曾お續、若子、同事、  
親族も定或、通、お中、服忌、史の、信、嫡孫と若子、  
し、後、例、如

嫡孫若祖母の父、妻と祖父妻、准、  
元文二己年、  
此小姓組と改家分同

一 嫡孫若祖母の父、  
准、此其繼祖母、此其服忌、何、父、の、如

附嫡孫若祖母の父、  
此附札

妻と妻、准、後、元、年、  
此、お、中、の、服、忌、  
此、お、中、の、妻、  
此、お、中、の、妻、  
此、お、中、の、妻、

末孫 <sup>二十</sup>

忌三日

服七日

女子、完初、けきても末子、誰と姑言、孫服忌日前

孫他家被お續し時ハ服忌不及沙汰ハ孫方ハ実方祖父母  
半減ハ服忌之なり

一 養母の子供の服忌末孫ニ毎二日七日より五降、養女  
こそハ婿家ニ對シテ九報多と一返りの養女ハ服忌令ハ降ハ六  
不及沙汰人の娘と養女ニ以テ、養父ハ其地ハ嫁  
ハ時ハ養父ニ毎二日

末孫甥姪他ハ其子ニ承ルル

誰縁ハ前居ル事

天明元正年七月  
長山庄古河

一 甥姪孫他家ハ養子ニ承ルル智お續ハ其時、祖父母伯叔父姑  
方ハ其服忌ハ減ハセハ右甥姪孫他家ハ誰縁ハ其  
如元定式ハ服忌ノ事

曰

虫面ニ通ハ甥姪孫他家お續ハ其子ニ承ルル祖父母  
伯叔父姑方ハ其服忌ハ右甥姪孫誰縁ハ其如元  
如元定式ハ服忌ノ事

次男三男他に養子と他  
本生子孫祖父と事

安永二己年五月  
正平寺藏書局同

一 次男三男他に家口養子と他右次男三男の子右実祖母  
方は孫に服忌と一日に遠慮と云ふ孫に方は祖父  
母に服忌と減更と右三男三男の兄弟に方は孫に服忌  
と一日に遠慮と云ふ孫に方は祖父に服忌と減更と

曰

書面にては次男三男他家に養子と本生子と別実祖  
父母に方は孫に服忌并遠慮と云ふ孫に方は祖父に減  
更と服忌と云ふ三男三男の兄弟に方は孫に服忌并遠慮と云ふ孫に

方は祖父に減更と云ふ

末孫に命知と云ふおれ万歳事

元文二己年  
小菅藩史記元文同

一 末孫右祖父命知更半嫡孫に祖同知と云ふ報親親事  
右同事服忌と云ふ但此子に孫に親親と云ふ忌服更と云ふ

曰

書面にては服忌命知と云ふ事及孫抄に若しと云ふ  
之に認前度と云ふおれ

曾孫玄孫 <sup>廿一</sup> 忌三日 服七日

娘方夫曾孫玄孫方服忌廿一

男子の曾孫玄孫二日七日あり其家定むれば服忌廿一

曾孫玄孫之忌事

元文二己年二月  
福島日向夜分同

一 曾孫玄孫之忌以計高き武書目之書公日而忌扱其

出附札

曾孫玄孫之服忌也其末子より其方より

従父兄弟姉妹 <sup>廿二</sup> 忌三日 服七日

父の姉妹の子母方も服忌同也

従父兄弟姉妹を通用し従弟の子を以て續名目然るに服忌掛之方に因て此も之を末也

一 従弟ハ一服を切らざる姉妹并伯叔姪甥は其方より  
何れも之も一方他は其方より其家定むれば服忌之れ其  
服忌之方より

一 兄弟他家に養子とあるは其方より兄弟あるは其方より  
いづれの時従弟有り右親あるは其家お續て其服忌之れ  
此処右其家お續て父の妻も兄弟より其方より  
従弟におかれは時夫父方従弟服忌之れ母方従弟より

服忌をいふを附の礼事也

- 一 親吳父兄弟等より子同輩は皆等より母を服忌之に  
以同吳父兄弟等のケ条に記す

親他家お續するを子大長身之事

安永八亥年八月  
長山居ちり同

- 一 兄弟大他家に養子をお親家誓お續は右子をお平に長身

此等以服忌より更の甲申

此附礼

由る毎に服忌に

長身より伯父出子之事

元文元辰年  
松平終成改辰分同

- 一 長身兄弟姉妹より伯叔父姑の内出子系は皆お續出府  
を伯叔父姑も減く服忌の更は此

曰

長身兄弟姉妹より伯叔父姑の内出子系は皆同姓  
より之事は母方より伯叔父方より長身より方に養子系は  
孰も其姓より之事は其母方は減く服忌に其より

長身兄弟より親并認方之事

宝曆五亥年九月  
松平大智辰分同

- 一 長身兄弟は又服忌令く条目父方より減る木の是か年かを  
長身兄弟より已より年下と長身兄弟より姉妹も同輩に母方  
長身兄弟姉妹より長身は忌服出而より由るより認方の長身



兄弟に親父方母方と相違し、此月には兄弟の長は父方、次は母方、又父母の  
お祀り申すに、兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、

曰

服忌令に、親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、  
親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、  
親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、  
親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、  
親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、  
親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、  
親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、  
親父兄弟姉妹と云ふは、此處に、親父兄弟姉妹と云ふは、

兄弟に親父方母方と相違し、此月には兄弟の長は父方、次は母方、又父母の

安永二己年一月  
酒井石見守殿

一 養父の妹の養子に、此月には兄弟の長は父方、次は母方、又父母の

曰

書面にて、兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、

実方に、兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、

安永二己年二月  
遠山書院殿

一 養父の妻の養子に、此月には兄弟の長は父方、次は母方、又父母の  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、  
兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、

曰

書面にて、兄弟の長は父方、次は母方、といふ儀、用ひ申すに、

江戸女口穿字之事

安永二己年八月  
不田吹河保方同

一 伯母穿遊樂園去り実父七席去り續き以遊樂園遊樂女口  
穿養子有は先子前田信忠に方遊樂園之席実女前田  
江戸服忌之事

日

書面之趣ハ江戸實式之趣也

伯母之養方江戸之事

昭和八年十月  
是部内保方同

一 伯母穿妾後子云父好命の内并天後子伯母穿子は此女  
江戸續くお成の定式服忌掛也

日

書面之趣ハ養方江戸お成の定式服忌也

年也

伯母穿好命と妾服子嫡母の養子此中平父格第也  
他此中父階札父死後子母斗養子を親戚節にお成は若伯母  
と後夫とては実の妾服と養子貫入は時ハ是時と世貫入同  
子有階札之趣也

父之實方江戸之事

昭和八年十月  
江戸實式及同

一 江戸河に誰右誰左父の冥方正に在るを以て服忌の儀あり  
お心持のり

日

書勿(返)て服忌之

甥姪 廿三日 服七日

姉姪の子孫忌日前 冥父兄弟姉妹の子ハ忌減 服忌の儀

冥父兄弟姉妹の子忌減二日は是 甥姪の方ハ伯叔父姑忌減

孫忌の儀ハお母の忌減より忌減の儀ハお母の忌減の儀ハ

伯叔父姑忌減の儀ハ廿三日也 此儀伯叔父姑の忌減

妻忌

一 甥姪孫他は日暮子に未離縁の時也元定式に孫忌の儀

孫の忌減の内忌の儀ハ

甥の家管伯父波中續出時事

母水三平十一年十月  
松平丹波守辰吉因

一 松年著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書  
傳習書十部著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書  
松年著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書  
松年著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書

曰

出而一返著十部為二宮見之而由來傳習書  
松年著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書

松年著十部續松年傳習書

母永二己年三月  
松年著十部續松年傳習書

一 松年著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書

松年著十部續松年傳習書

曰

書而一返著十部為二宮見之而由來傳習書

但前在九部著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書  
松年著十部續松年傳習書右著十部為二宮見之而由來傳習書

曰

書而一返著十部為二宮見之而由來傳習書

七歳未滿小児の服忌之記 七四

父母等三日遠慮を命じ親類は同姓はもと忌む所なり一日遠慮を  
日教ふ所なり追而及遠慮他公事より定式に振忌の事

附七歳未滿小児の方より服忌之に父母死す所より十日  
遠慮を命じ親類より一日遠慮を父母を年月と定めて申し  
年月は凡そ十日遠慮を命じ七歳未滿の母より十日  
の忌母より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
相如し七歳未滿の母より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
婚嫁は致さずとも夫婦定式の日教遠慮の事より  
七歳未滿の母より一日の遠慮を命じ右に忌む所より十日  
右に忌む所より十日の如き祖父の母七歳未滿の婚嫁より

不孝親内若くは父若くは母を養ふ事より忌む所より十日  
振忌之記

一 年暮り子に婚嫁の致娘七歳未滿より死す所より十日  
の忌母より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
の如き一日の遠慮を命じ右に忌む所より十日  
の如き一日の遠慮を命じ右に忌む所より十日

一 七歳未滿小児の服忌之記の内

沖免より勤延法未より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
牧野徳より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
附れより十日遠慮を命じ父母死す所より十日

七歳未滿小児の服忌之記の内  
沖免より勤延法未より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
牧野徳より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
附れより十日遠慮を命じ父母死す所より十日

七歳未滿小児の服忌之記の内  
沖免より勤延法未より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
牧野徳より十日遠慮を命じ父母死す所より十日  
附れより十日遠慮を命じ父母死す所より十日

父、実方祖父遠く、  
舟軍、遠く、

六月  
并、行程、

一、古部大膳、  
祖父、  
遠く、

書面、  
日、

七年未満、

宝曆七年、

一、七年未満、  
日、

書面、  
日、

一、  
次

次男、

安永二己年、

一 孫七歲未滿他地日苦子... 憐右遠急... 父母...

同

書而... 他日養子... 憐男女... 遠急... 日救...

朱也

次男他相... 祖父... 憐男女... 憐男女... 憐男女... 憐男女...

七歲未滿... 書

宣統八年七月... 天坊之...

一 七歲未滿... 遠急...

同

書而... 七歲未滿... 遠急... 遠急...

七歲未滿... 遠急...

天正二十一年... 加...

一 七歲未滿... 遠急...

同

書而... 遠急...

年忌 五

遠祖に於て死去年月と神て告束るとし父母の節分  
日忌五十日服十三日卯親類の節分日服忌終日散可  
父の日散して告束ると一日遠祖服終日散可

家督相続の地記也と法養父母を承継して死去は  
節分の日散終日散忌服父の節分相続の地記也  
一 遠祖の節分忌服終日散可

一 遠祖の節分忌服終日散可  
死去の節分忌服終日散可  
一 遠祖の節分忌服終日散可  
一 遠祖の節分忌服終日散可

重親服忌 廿六

父の服忌未納内母の服忌終日散可  
十三日服忌の父の節分服忌内終日散可  
終日散可服忌夜父の日散可  
一 遠祖の節分忌服終日散可



穢 廿七

斎穢七日婦三十日遠至公告其日教之曰穢  
事之七日内取りて穢之日教穢之曰穢  
流穢日取を妻の斎穢の時也

斎穢七日内 決別之

其永九子年九月  
牧野内子年九月

一 斎穢七日遠至三日但七未満子死有父母遠至右  
経事之曰穢斎穢遠至 決別之 経事之曰穢  
経事之曰穢

曰

書而之曰穢斎穢遠至

決別之 経事之曰穢  
二 斎穢七日内 決別之

血荒 廿八 庚七日 婦 十日

流毒血荒之病祖父遠之患及此

安永二己年二月  
松平右近守監及同

一 流毒血荒之病祖父遠之患及此

日  
此書面之患ハ流毒血荒此祖父遠之患及此

流毒 廿九 庚五日 婦 十日

形時之患ハ流毒形時之患及此

形時之患ハ流毒形時之患及此

安永二己年二月  
松平右近守監及同

一 形時之患ハ流毒形時之患及此

日

此書面之患ハ流毒形時之患及此  
祖父遠之患及此

死釋

三十一

家内の人死時一回に居合はるる程之を交へて居居隔はり  
穢無し一乃に居合はるる好はるる程之を二階高より  
口交居居はるるに釋之は家内所死合之時  
之骸の死時猶ほは家内死合はるる死釋は之  
為之に死後之所に居合はるる骸之に之に居合釋也

踏合

三十一

死水

改葬 <sup>三十二</sup> 遠慮 一日

子之及孫遠慮但此物以之遊而不及遠慮以忌掛以執  
改葬之場日本以之遠慮也一忌之親親也其場也  
とて不及遠慮改葬之自之於他人也一日遠慮也  
改葬記以日一葬以日一葬以日二日一忌也他人  
とて改葬之自之於他人也

但場記以翌日人葬以前日とて改葬日とて及遠慮  
改葬之儀遠慮の中日限好なりと日遠慮也一  
日限不好也其後好なりと遊而不及遠慮也

場記以日一葬以日一と日遠慮也

宝曆八年七月  
久世本云云後分同

一 久世本云云曾祖父大和守并日人妻娘之遺骸口ツ谷内及宗  
久世長門守下屋敷在唐門智模在屋敷之所相對於江右右  
大和守并日人妻娘之遺跡本云云拍地小日向屋敷内改葬  
江右改葬之儀場記以日葬以日高日右日遠慮江右改葬  
服忌令之所度也本云云右日遠慮江右改葬之儀為忌日

書面之儀也日一とて改葬也



